

<大見出し>

「シナ海の緊張関係の平和的解決に向けて」

<小見出し>

仏外相との協議のためにパリに立ち寄った日本の玄葉光一郎外務大臣、日仏関係の重要性を強調。

<本文>

私は、本日より、フランス、英国、ドイツをそれぞれ訪問し、各国の外務大臣と会談する予定である。この機会に、フランスの読者に、今次訪仏の主目的につき説明したい。

今次訪仏の最大の目的は、既に何度も話し合った友人であるファビウス外務大臣と外相間戦略対話を行うことである。東京でファビウス外相と、日本とフランスを「最高の関係にする」ことに合意した。今回の対話では、このための具体的な協力について協議する。

日仏は、自由、民主主義、市場経済、基本的人権の尊重、法の支配といった基本的価値を共有している。両国の人々は、繊細な美意識を共有しているが故に、互いの文化に深い敬意と愛着を抱いている。

高度な技術を有しグローバルな責任を有する日仏の共通性や相互補完性は、双方向での投資等を通じた成長促進や雇用創出の大きな可能性を秘める。

フランスの排他的経済水域の3分の2は太平洋にあり、フランスは、日本とは太平洋の重要な隣人同士である。太平洋における日仏協力の強化は双方にとって、また、国際的な海洋秩序のためにも重要である。

世界での人権・民主主義の推進、環境・エネルギー分野での新たな技術創出、アフリカを含む途上国への開発協力等日仏協力の地平は広大である。カンボジア特別法廷の設置はその輝かしい成果である。

国際社会における「法の支配」の推進は、日仏に最もふさわしい協力分野である。野田総理が9月の国連総会演説で強調したとおり、国際的にいかなる主張の対立があっても、問題は平和的に国際法に従って解決すべきである。暴力や国際ルールの無視により自己の主張を押し通そうとすることが全く正当化されないことは、現在の中東情勢を見ても明らかである。

フランスの方々は、明白に日本の固有の領土である尖閣諸島を巡る最近の緊張の高まりに強い関心を持っておられるかもしれない。

我が国は、今後もアジア太平洋地域の平和と繁栄のために隣国と協力していく考えである。日本は、日本の領土を巡る事態が地域の情勢に影響を与えることは望んでいない。日本としては地域の責任あるプレーヤーとして、今述べたような立場に従い、冷静に対応し、緊張緩和に努力する考えである。

二度にわたる世界大戦の反省に立ち、平和への取組を推進してきたEUのノーベル平和賞受賞を心から祝福する。EUはフランスの叡智なくして成立しなかった。日本は、アジア太平洋地域において、民主主義的な価値に基づく豊かで安定した秩序を構築するため、太平洋の隣人たるフランスと一層の協力を推進していきたい。